

— 検証運用③ —
災害を想定した実証（国内初）

災害を想定した実証

クロステックフィールドジャパンと関市、それに各務原市の連携協定に基づいて行われたものです。

5月27日 岐阜県・関市・各務ヶ原

株式会社 ROBOZ 様(岐阜県)

クロステックフィールドジャパン株様

天候 雨

気温 19°C

風速 0.3m/s

気圧 1000hPa

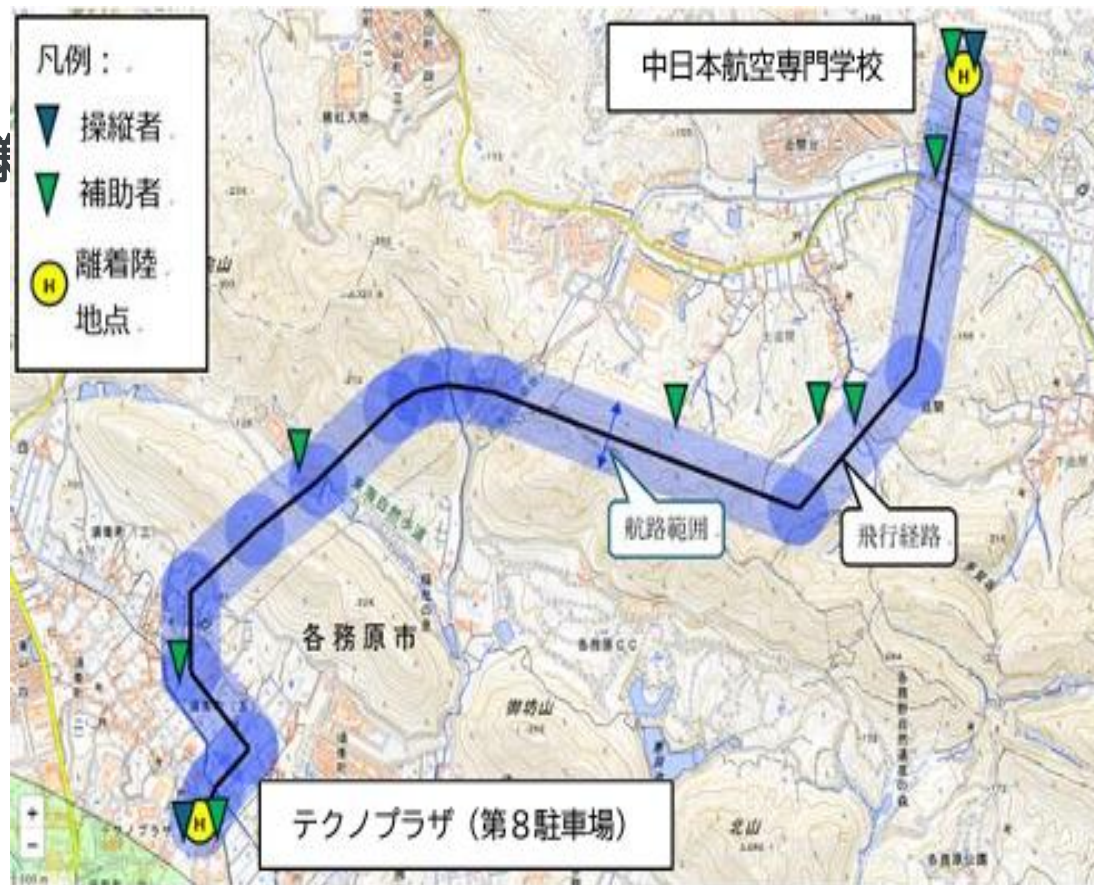
オペレーター 2名

中間指示員 6名

地上スタッフ数 6名

運搬距離 約6.7km

標高200m



災害を想定した実証

DJI DELIVERRYHUBを使用し
フライトプランを立て飛行ルートを作成。

詳細

高度120～160m

飛行速度30キロ

飛行時間10分

バッテリー ディアル

機体通信系統

スターリンク機器

(衛星受信電波)を使用



DJI DELIVERRYHUBを使用



スターリンク使用

災害を想定した実証

物資ペイロード
ペットボトル
500ml 24本
12Kg

飛行申請申請
包括申請(目視外・人物30・
輸送)立入管理措置



12kgのペットボトル



会場での声

- 1、能登半島地震等の災害時においてDJI FlyCart 30(物流機)が有るのに使えなかった為、今後は災害地などに導入を検討したい。
2. 次回の検証はより長距離を想定した実験を行ってほしい10~20キロ
3. 地形がV字型で幹線道路も少ないため災害などで道路が寸断されると孤立する地域が出てくる危険性がある為、DJI FlyCart 30が有れば救難・救助なども可能性が上がる

などの声が上がっていました。